

縦
横
の
機
織
る
地

縦の機織る地

人と人、人とモノは団地内外を縦横無尽に駆け巡る糸で結び付けられる

糸により視線は誘導され、心動かされる。糸により人々は引き合わされ会話が始まる。糸は躯体であり、家具であり、見えない誘導でもある。その糸をどう活用するか、どう思考するかは十人十色だ。

糸により結ばれた人々が少しずつ生活を機織り堀川団地を創っていく

堀川商店街だ!!

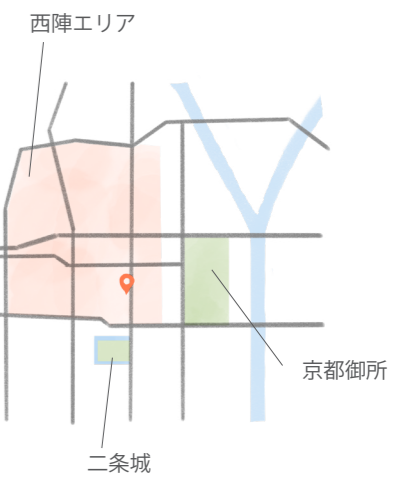
01. 京産業発信拠点

沢山の選択がある現代において歴史あるものを「未来に残す」ということは古き良い伝統を守っていくだけでは立ち行かないことが多い。沢山のものにあふれる現代だからこそ他にはない+αの価値を発信する必要がある。伝統に保守的にならずに新しい道を模索している個人作家に焦点を絞り、堀川団地を拠点として発信してもらう。京産業のことを詳しく知らない人たちも知る入口となりやすい。



02. 敷地

西陣エリアに属する堀川団地は、戦前「堀川京極」として栄えていた。戦時中の建物疎開によりかつての堀川京極としての姿はなくなったが、現在は堀川商店街として地域密着型の商店街を形成している。



03. 繋ぐ価値

堀川団地をより身近にする3つの「繋ぐ」で建物に+αの価値をもたらす。

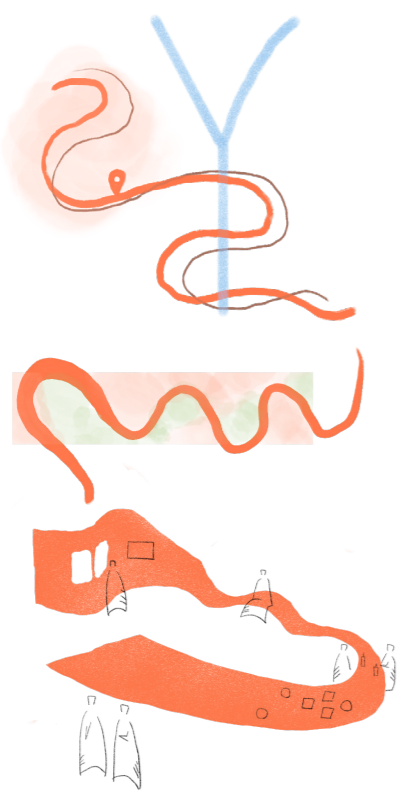
建物と家具を繋ぐことで建物と人々を繋ぐ

X

用途を混在させることで生活と京産業を繋ぐ

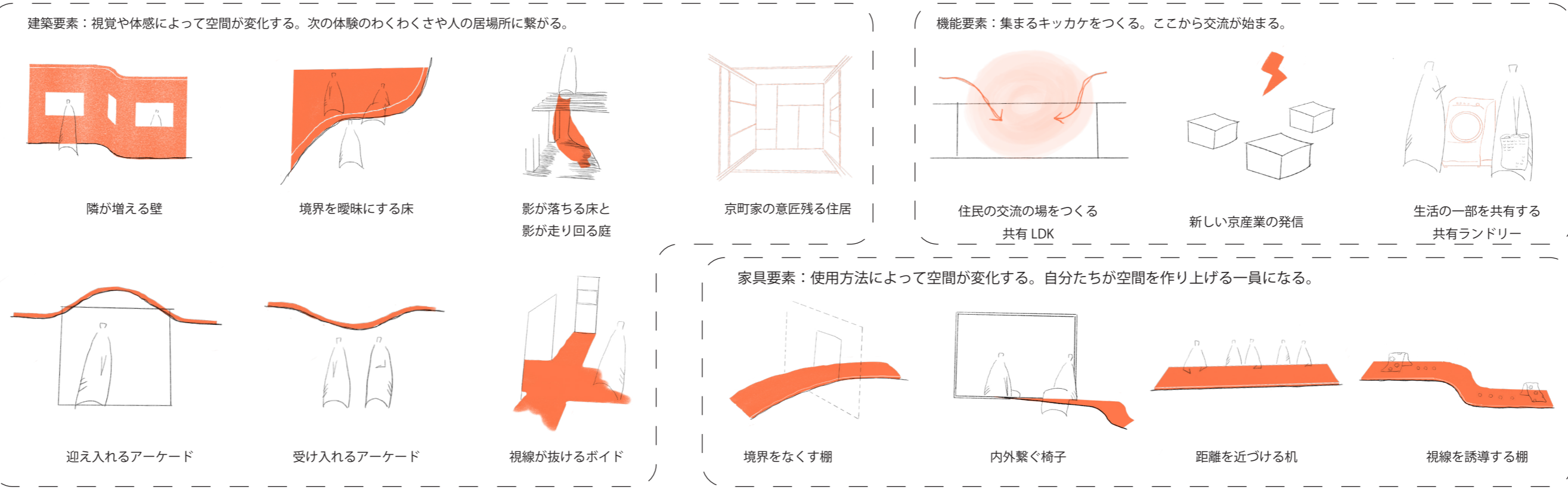
X

拠点があることで西陣エリアの人々を繋ぐ



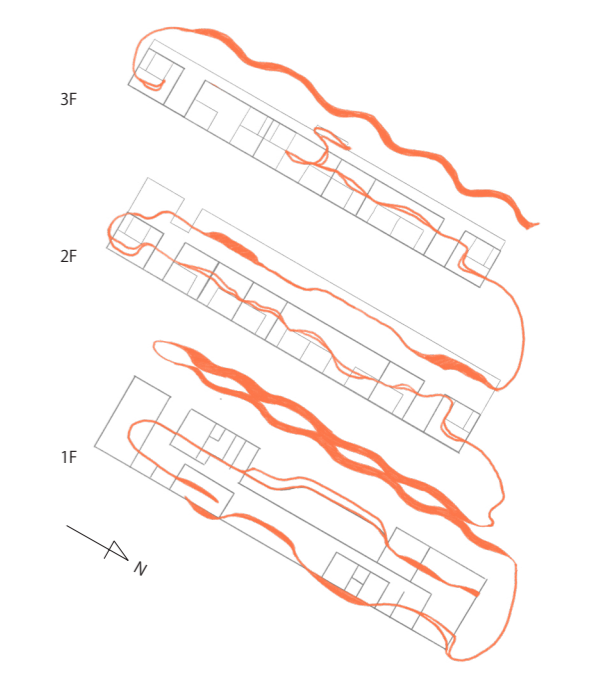
04. 団地に織り込む14の要素

14の要素は躯体であり、家具であり、見えない誘導だ。織り込まれた要素が人の交流を深める役割を担う。



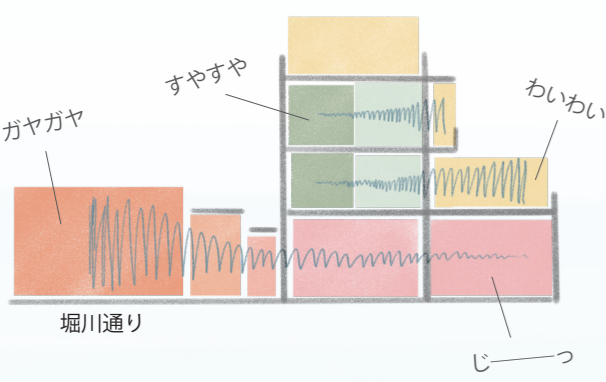
05. 立体に織りなす糸

一筆で描くように織る糸は堀川団地の外、店舗部分、住戸に一体感を持たせる。立体的に織り込まれた糸は人々の活動や意識を広げ、堀川団地に新たな魅力が生まれる。



06. 空間グラデーション

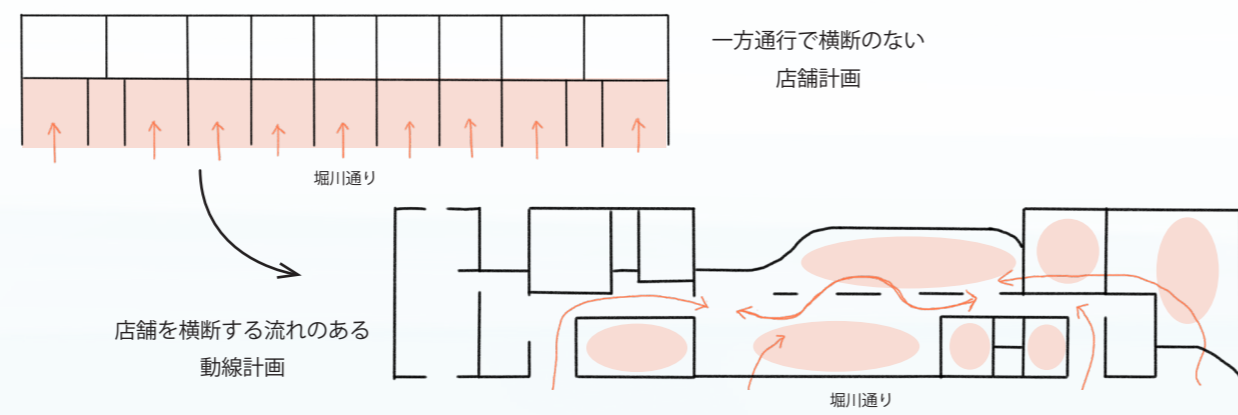
特性の違う空間同士を徐々に繋いでいくことで空間のグラデーションを描きながら、活動を広げやすくする。



07. 再生計画提案

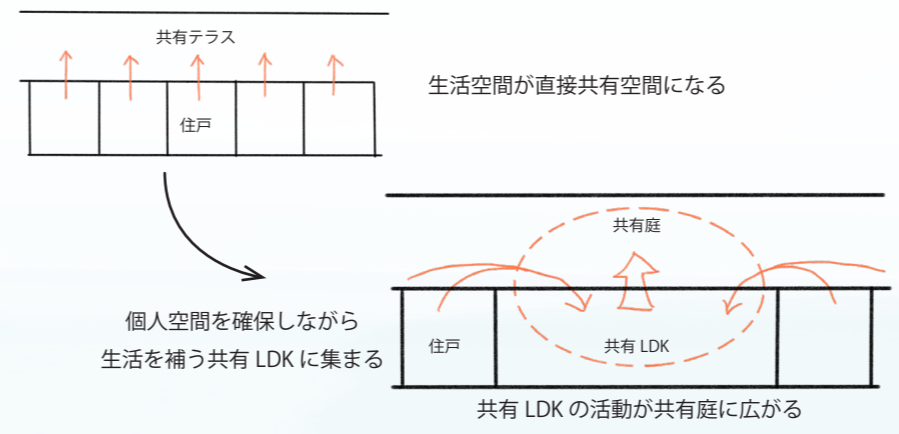
店舗動線提案

壁で隔られた従来の計画では興味あるもの、用事のある店舗にしか訪れない。そのままでは新しい発見をする機会が失われる。そこで、壁での隔りを少なくし建物内部に引き込む路地をつくる。引き込まれた路地から様々な店舗を横断することで新しいものに出会うキッカケになる。



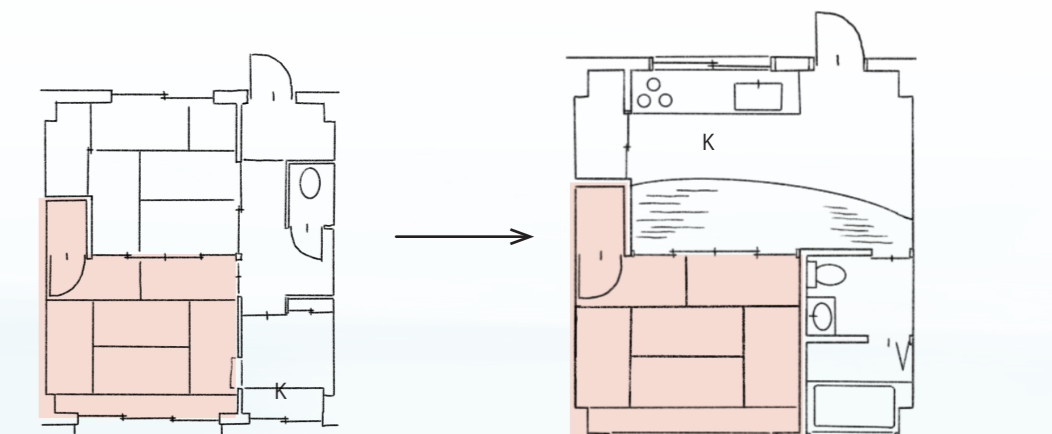
共有空間提案

昔は交流の場が生活の場になっていたが、現代では交流の場が生活の場になることはプライバシーなどの観点から起きにくい。そこでコネクティブハウス形式を取り入れ個人の空間を確保するとともに共有の生活スペースをつくる。共有の階段を踏むことで他人同士が集まることのハードルを低くする。



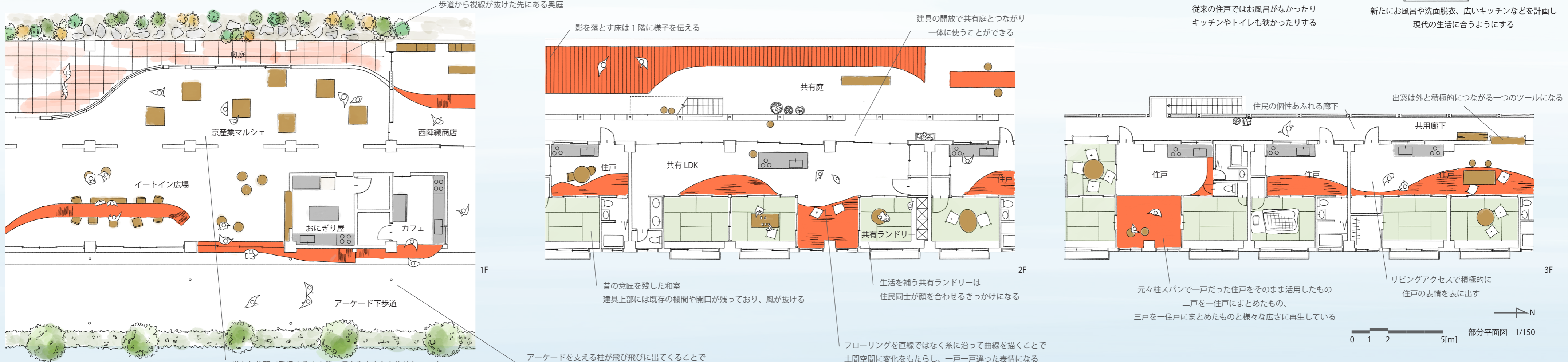
住戸提案

従来の住戸ではお風呂がなかったりキッチンが狭かったりキッチンやトイレも狭かったりする。新たに風呂や洗面脱衣、広いキッチンなどを計画し現代の生活に合うようにする。



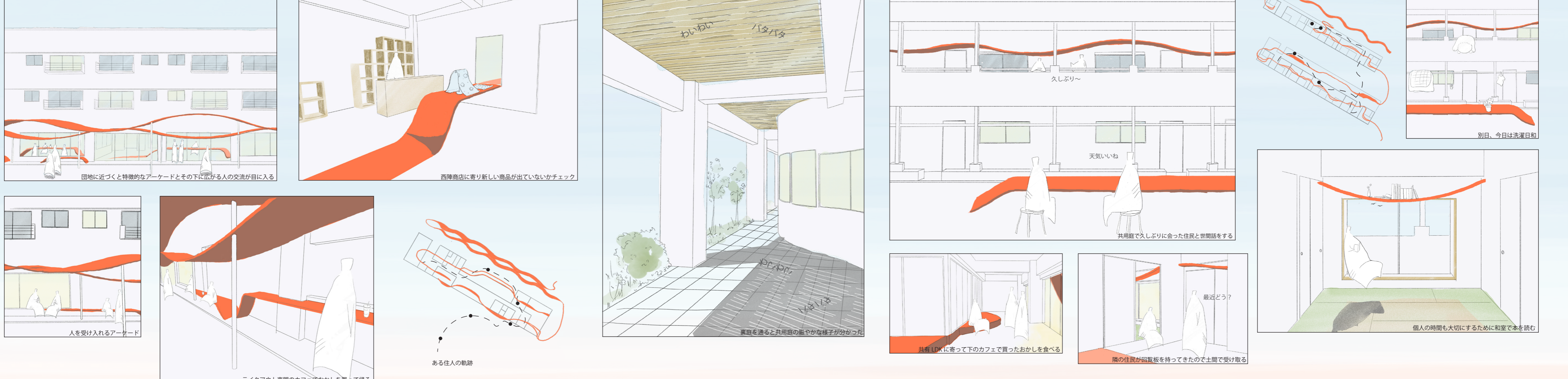
08. 生活を繋ぐ糸

様々なシーンを描く糸は人と人を結び付け生活を豊かにする。



09. 糸とともに過ごす日常

ある住人の日常の一部を見る。



10. 堀川商店街を繋ぐ糸

糸は連続し、堀川商店街に一体感と動きを与える。既存のファサードは大きく変えず、団地の歴史は受け継いでいく。

